

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催

「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム \ごまるよん。／

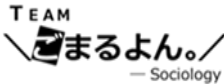
「100年つづく公設市場ミーティング」報告書

<目次>

・チーム「＼ごまるよん。／」概要	3
・地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)概要	4
・プロジェクト「100年つづく公設市場ミーティング)」概要	5
・アンケート・インタビュー調査分析	7
・ファシリテーション講座	13
・イベント実施報告：100年つづく！？那覇まちぐわーミーティング	15
・イベント実施報告：100年つづく公設市場ミーティング	20
・イベント参加報告：第11回マチグワー楽会	25
・地域への成果の還元	26
・プロジェクト全体の成果	27
・資料編(調査票やイベント使用資料など)	28

チーム「＼ごまるよん。／」概要

＼ごまるよん。／とは、琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻所属の地域づくりに興味がある7人で結成したチームである。2018年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チームとして「100年つづく公設市場ミーティング」の企画・運営を行う。

ロゴデザイン	
構成員	リーダー：川崎宇温 副リーダー：金城愛弥 伊佐日奈子・糸数梨々花・金城ひな子・辻本誠・根間友紀乃  （上段左から根間友紀乃・金城愛弥・伊佐日奈子。 下段左から金城ひな子・川崎宇温・辻本誠。）  （上段左から金城愛弥・伊佐日奈子・根間友紀乃 金城ひな子・糸数梨々花。下段中央は辻本誠。）
SNS 等	Email：5maru4sociology@gmail.com Twitter:@5maru4 Facebook：「＼ごまるよん。／」

ちゅらプロ概要

「地域共創型学生プロジェクト(通称：ちゅらプロ)」(主催：琉大コミュニティキャンパス(RCC) 事業本部)とは、琉球大学生の「地域に貢献したい気持ち」を応援し、その「はじめの一步」となるアイデアや活動をサポートするプロジェクトである。琉球大学生が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこでの課題の発見・解決等に取り組むという公募型の正課外活動として、学生の地域理解の促進・地域を共に作る人材の育成が狙いである。また、採択されたプロジェクトに対しては、プロジェクト費用の支援だけでなく、琉球大学の教員・事務職員の全面的なサポートも行われる。

詳細は、琉大コミュニティキャンパス「H30『地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)』公募開始！」(<https://ryudaicoc.skr.u-ryukyu.ac.jp/news/4054.php>)を参照。

＼ごまるよん。／の「100年つづく公設市場ミーティング」は、ちゅらプロ採択プロジェクトとして活動している。

以下の図は、2018年度ちゅらプロ採択プロジェクト募集に関するフライヤーである。



ちゅらプロ

地域共創型学生プロジェクト 2018年度公募

実施期間：2018年7月～2019年3月

公募説明会開催！

5/14(月)

12:00～12:40

地域国際学習センター
3F301室

募集要件

- ① 琉球大学の正課外学生活動として構成されるチーム。
- ② 地域再生、国際学習・研究科に属しません。
- ③ 実施するプロジェクトは「教育」と「地域」を軸とし、最後まで進行できるチーム。
- ④ 地域課題にエントリーする必要があるチーム。
- ⑤ ①～④の要件を全て満たすこと。

「地域共創型学生プロジェクト(以下、ちゅらプロ)」は、琉球大学が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこでの課題の発見・解決等に取り組むという「公募型の正課外プロジェクト」です。地域を共に作るためのアイデアを学生の皆さんに出していただき、審査のよ。審査されたアイデアに対して、そのアイデアを実施するための費用を支援します。採択されたプロジェクトに対しては、費用の支援だけでなく、計画・実施にあたって大学の教員・事務職員が定期的に皆さんのチャレンジをサポートします。

エントリー必 2018年5月25日(金)必切

エントリーシートは出願書。各学部事務窓口、RCCWEBページより入手してください。

事前研修会 2018年6月2日(土)
10:00～14:00
地域国際学習センター 301 講義室

公開審査会に向けたプロジェクトプランの作成について研修を行います。

お問い合わせ 地域連携推進機構 / 地域国際学習センター 306 研究室
担当：空閑唯子(くがむつこ) TEL: 098-893-8087
総合企画若手地域連携推進機構
担当：赤根雅也 TEL: 098-893-8085

選考採択基準

① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

プロジェクト「100年つづく公設市場ミーティング」概要

1. 概要

事業名	「100年つづく公設市場ミーティング」
主催者	チーム：\ごまるよん。／
概要	アンケート・インタビュー調査を実施し、第一牧志公設市場の現状を把握し、それを踏まえた「100年つづく公設市場ミーティング」を開催する。ミーティングでは「多様な人々・長期的な視点・自分事として考える」をキーワードに、地域のビジョンを考える場を提供する。プロジェクトの地域への成果の還元として、瓦版や報告書の作成・配布を行う。
目的	第一牧志公設市場の再整備が決定・実施され、転換期を迎える現時点に、様々な立場の人が集う場を提供し議論を行うことで、長期的な地域づくりを視野に入れた公設市場の在り方の構想を目指す。また、学生である私達が会議を行うことによって、利害関係にしばられない広い議論の展開と多様な立場の人々が集まる場を設ける。
実施内容	・アンケート・インタビュー調査 ・瓦版・ちらし作成、掲出・配布委託 ・ファシリテーション講座への参加 ・「100年つづく！？那覇まちぐわーミーティング」の実施 ・「100年つづく公設市場ミーティング」の実施 ・報告書作成／配布・提出 ・第11回マチグワール楽会参加 ・RCC 成果報告会参加

2. 実施計画

日付	内容
8/1	キックオフ説明会
/4	チャリティーバザー（1名：ボランティアとして参加）
/31	インタビュー案作成
8/7～9/22	ヒアリング・アンケート調査実施 ちらし・プレスリリース・ポスター作成 講師・会場調整 資料等の準備
10/1～10/26	瓦版第一号作成・配布委託
11/2	ファシリテーション講座①

/6	ファシリテーション講座②
/9	「１００年つづく！？ 那覇まちぐわーミーティング」実施 イベントポスター掲出・ちらし配布委託
/14	ファシリテーション講座③
/27	「１００年つづく 公設市場ミーティング」実施
12/2	ファシリテーション講座④
12/8～1/10	瓦版第二号作成・配布委託
1/11～2/23	報告書作成
2/24	マチグワー楽会主催：成果報告会参加
3/18	RCC 事業本部主催成果報告会

アンケート・インタビュー調査分析

■アンケート調査

調査方法：公設市場前で調査票を配布し、回答後回収した。

調査対象者：公設市場利用者（地域住民、観光客含む）

調査実施日：2018年9月4日

調査場所：第一牧志公設市場周辺

※調査票は資料参照。

▶アンケート調査分析

地域住民

公設市場の魅力については、人とのコミュニケーションに魅力を感じる人が多かった。また、「活気がある」「沖縄らしい」点に惹かれる人もいる。

「どのような公設市場だと通い続けるか？」という問いに対しては、現状維持「今の雰囲気がある・人との交流がある・沖縄らしさがある」という意見がある一方、「清潔感がある・スーパーマーケットのような感じで便利」など利便性を求める声も一定数存在した。

観光客

「沖縄の雰囲気や食文化を感じられる」ことや「お店の多様さ」に魅力を感じて公設市場を訪れていた。

■インタビュー調査

調査方法：構造化面接法にて実施した。インタビュー時間はおよそ1時間であった。

調査対象者：①那覇市役所（経済観光課なはまち振興課、まちづくり振興推進課）

②沖縄尚学高校 地域研究部

③公設市場の関係者（事業者、通り会など）

調査実施日：2018年9月

※調査票は資料参照。

▶インタビュー調査分析

対象者：市場事業者・近隣事業者・市役所職員・学生・その他

1. 市場の魅力

1-1. 「公設市場には現在どのような魅力があると思いますか？」

全体として最も多かった回答は、相対売りによる客との親密な距離感との回答であった。

次いで古くからある雰囲気という回答が多く、雑多に並ぶ景観や活気のある雰囲気が評価されるような回答が多くみられた。その他にも、市職員の回答事例として歴史や文化を学べるという回答、また、市場事業者の大型のスーパーマーケットにはないような掘り出し物などがあり、品揃えにオリジナリティがある点、それぞれが専門店のため店員が鮮魚・精肉に関して豊富な知識を持つという点が魅力であるという回答が挙げられた。公設市場には接する人によって感じ方の異なる、様々な魅力があることが明らかになった。

1－2. 「公設市場の魅力を守っていくにはどうすれば良いと思いますか？」

最も多かった回答は、「(公設市場の持つ) 価値やコンセプトの再確認」という回答であった。しかし、回答者が考える公設市場が持つべき価値やコンセプトには差異があり、「ものを売るだけでなく文化・風習を守るための商いの場 (市役所)」や、「若者の挑戦を受け入れ、目を引くような独特な小売店がある場 (事業者)」、「子供たち向けの体験学習や地元向けのイベント、価格も地元向けにして、市場の魅力をつないでいく場 (その他)」などというように、多種多様であることが明らかになった。また、組織内に女性がいないため、女性を取り入れ女性の意見を反映させるという意見もみられた。

2. 公設市場の役割

2－1. 1.公設市場は食文化継承の役割を担っていると思いますか。

「はい」という回答が多く、その理由としては「店員が食品の扱いを教えてくれるから」という回答事例が多かった。しかし、一方で「もう 1 つの役割である観光地としての側面が大きく感じるため、強く担っているとは考えない。(事業者)」という意見も挙げられていた。

2－2. 食文化継承の役割以外に、公設市場はどのような働きがあると考えますか。

食文化継承以外に担う役割はないという回答の他に、事業者の方による地域コミュニティとしての拠点としての役割という回答や、戦後復興の象徴としての役割を担っている (その他) という回答がみられた。また、観光客のシンボルタワー的存在、エリアへのシャワー効果を持つ存在 (その他) という観光地としての役割を担うという意見もみられる。

2－3. 今後公設市場にはどのような場所であって欲しいですか？

若者が来やすいような施設を作って欲しい (事業者) という意見がある一方、昔ながらの雰囲気をのこしたいという意見 (学生) もあり、文化継承のスポットとしたいという意見もある (市役所)。今後の公設市場の理想像は、非常に多様に存在することが明らかになった。また、そのためにすべき事として事業者は自分たちの仕事を一生懸命行うことや、商品の見直しを挙げ、市職員は公設市場へのニーズの把握、学生は今の雰囲気を残しつつ

中高生が足を運びやすい場所の考案と挙げた。その他にも、若い人たちがどういう市場にするか真剣に取り組む地元の人と交わることができる場づくりなど様々な回答が得られた。

3. 100年後の公設市場

3-1. 公設市場の100年後はどうなっていると思いますか？

同じ市場事業者の中でも、「国内の客が全くいない公設市場になるだろう。リピーターがいない、また来ようという魅力がない。」という意見の他、「若者を取り込む事に成功し、沖縄全体のアンテナショップのような場所、かつ、他国の食を楽しめる場所になっている。」との回答、また、「想像したことがないためわからない」という回答もみられた。また、「公設市場の存在はあると思うが形は変わっていると思う。那覇の中心市街地にはあると思う、「公設」という公、拠点施設なので色々残っていると思います。」との回答がみられた。

3-2. 公設市場が100年続くにはどのようなことが必要だと思いますか？

「地元の人たちを大事にする」という回答が最も多くみられた。その方法としての意見は、「若者の起業を支える」、「新たな人材を募る方法を考え、育成する」という地元の若者や新たに関わる人材に焦点を当てた意見がみられる一方、「地元の人と交わることができる場づくり」という回答や、「消費者の声を聴く」という回答、「地元向けのイベントなど、文化関係を網羅しているので、そういう人たちとイベントを盛り上げる協力をする」というような公設市場を普段から利用する人たちに焦点を当てた意見など様々であった。また、「地場のものがあってこそだと考えるので、沖縄の人が文化を伝えること」が必要であり、「目先のことでなく、一歩先、将来を見据えたことし、食文化をしっかりと伝えることができる機能を入れるべき。」という回答も得られた。

4. 公設市場移設

4-1. 公設市場の移設前後で何が変わると思いますか？

変化は少ないだろうという意見の他に、「人の流れや業態(他店との品揃えなどの差別化や撤退・廃業)が変化する」という意見や、「工事車両に対して注意が必要になる(歩くコースなど)。」という指摘、「逆に味気ない感じになってしまうかもしれない。」と現在の雰囲気が変わることを不安視している意見もみられた。

4-2. 公設市場の移設前後で変わらないものは何だと思いますか？

「個々店の客とのつながり」や「相対売りなどの文化」は変化しないという意見が多くみられた。

4-3. 公設市場の移設前後で変わらないで欲しいものと変わってほしいものは何ですか？

【変わらないで欲しいもの】

「昔ながらの雰囲気」や「専門性の高い店並び・グルーピング」、また「相対売りの手法」という回答が得られた。

【変わって欲しいもの】

「騒音や酔っ払いの規制」と、「より地元民の来やすい環境」との回答が得られた。

4－4．移設後の新たな公設市場に対して、要望や提案はありますか。

- ・駐車場
 - ・催事スペースを作って欲しい
 - ・バリアフリーのトイレ・スロープ
 - ・歩きやすい通路
 - ・衛生面・機能面でしっかりした設備
 - ・休み場所の設置(親の買い物中に子供が遊べる場所・沖縄限定ブリクラ)
 - ・禁煙・分煙の徹底
 - ・喫煙所の設置
 - ・空きスペースの利用(屋上をBBQスペースにするなど)
- など、様々な要望が挙がった。

4－5．農連プラザについて

市場改装の先行例である「のうれんプラザ」について、印象を聞いてみたところ「いつもどこかしらのシャッターが下りていて、品と売り手の顔が見えない。」や、「設計段階で、業者の声が入っていないのではと感じる。」など、マイナスな印象を抱いているというような回答が多くみられ、総じてあまり良い印象を持たれていないことが明らかになった。

5．ミーティングに希望すること

- 「次世代にはどうなってほしいのか聞きたい。」
- 「若い人々やみんなが来てくれる市場になるにはどうしたらいいか考えてほしい。」
- 「世代間交流が深まるきっかけになってほしい。」
- 「若い人たちがどういう市場にするか真剣に取り組んで欲しい。」
- 「地元の人と交わることができる場づくりが必要。」
- 「普段の会話ではない話題なので、学生が聞いて要望を集めてほしい。」

6．公設市場と若者

6－1．公設市場に若者が関わってほしいと思いますか？また、なぜそう思いますか。

調査対象者の全員が、若者公設市場に関わって欲しいと回答した。最も多くみられた理由

は「若者の発想が欲しいため」という回答であった。「若者が経営する店が欲しい」という意見や「若い人に使ってもらえるような市場じゃないと（長期的に続かず）意味がない」という意見もみられ、多くの回答者が長期的な存続につなげるためには、高齢者が経営するお店だけでは不十分であり、若者が経営するお店や若者視点のモニターが必要と考えていることが明らかになった。

6-2. どうすれば若者が公設市場に関わると思いますか？

「人材を募集し、経営者がアドバイスするなど手助けを行う」という回答や、「マネジメントできる人材を増やす」という若者が公設市場で事業市場を始めることを手助けするという意見や、「小中学校の市場見学をする」、「公設市場に関するイベントを告知する」というように、普段から公設市場に慣れ親しむ流れを作る手助けをするというような意見も挙げられた。

【市場利用者・学生の声】

Q.若者はマチグワーにいないといわれるが、どうしていないと思うか。

「生活の場というのが大きいからかなと思う。市場とか、あまりふらっと立ち寄れる場所ではない。自分の母が高校生の時はビリヤード場があって中高生でも行っていて盛んであったが、今はつぶれてしまっている。」

Q.どのような公設市場なら行きますか。

「やっぱり観光客中心だから物価が高いが、魚や肉など特化しているものがあるため、足を運びたいが周りに駐車場がないなど地元の人にとって足を運びにくい。」

「高校生からしたら行く場所でないから、例えば2階のブースと共存できるような場所づくりをすべき。小中高生でも足を運べるような場所にしてほしい。子供たちでも行ける場所。」

Q.どうすればマチグワーに若者が足を運ぶか。

「今流行っているもの（インスタ映えなど）にも乗りつつ、（今はあまり目にしない）昔ながらのものを残せば若い人も集まると思う。」

Q.現在若者は少ないが、大人になったときにマチグワーに足を運ぶか。

「自分たちは運ぶと思う。魅力を知ったので。魅力を知るまでが長い。自分としては、好きじゃない人もいると思うので、この魅力を自然にわかるのが一番。自分たちは中に入ってわかったので、一目瞭然ではないが、ぱっと魅力が分かるようにしないと難しいと思う。」

調査の様子



ファシリテーション講座

「100年つづく公設市場ミーティング」を企画・運営するにあたってのファシリテーション技術を学ぶため、国際ファシリテーター協会認定ファシリテーター(CPF)の石垣綾音氏にごまよん。／限定のファシリテーション講座を依頼した。また、石垣氏には講座だけでなく、イベントの企画・運営に関するアドバイザーとしても協力していただいた。ファシリテーション講座のプログラムは以下の通りである。

日程	内容
11/2	「はじめましてワークショップ」 ・ワークショップを体験する ・活動の意図を振り返る ・ワークショップのからくりを知る
11/6	「ワークショップのデザイン・ファシリテーターのあり方」 ・プログラムづくりと改善案づくり(今あるアイデアのブラッシュアップ) ・ファシリテーターのあり方(すすめる・問う・観察する・信用と共創のために) 記録写真(講座の様子)    

11/14	「100 年つづく！？那覇まちぐわーミーティングの振り返り」 ・ KPTT 法を使ったプログラム全体の振り返り ・ 100 年つづく公設市場ミーティングに向けて
12/2	「100 年つづく公設市場ミーティングの振り返り」 ・ KPTT 法を使ったプログラム全体の振り返り ・ 学んだことを今後に活かすために 記録写真(講座の様子)  

「ファシリテーション」という言葉すら聞いたことがないメンバーが大半であったが、ファシリテーション講座の受講により、ファシリテーションやワークショップに関する基礎的知識を理解し、イベント企画・運営の考え方の方向性が見えた。これにより、メンバーでワークショップのシミュレーションを行い、プログラムを検討することが可能になった。また、メンバー間でのポイントを押さえながらのファシリテーションの練習も行うことができた。これらのことは、今回の2つのイベント「100年つづく！？那覇まちぐわーミーティング」「100年つづく公設市場ミーティング」の開催へ大きな力になったと考えられる。

イベント実施報告：

100年つづく！？那覇まちぐわーミーティング

(1)概要

名称	「100年つづく！？ 那覇まちぐわーミーティング In 琉球大学」
実施日	2018年 11月 9日 金曜日
開催時間	16:30～18:00 (16:00 開場)
実施場所	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地 琉球大学 共通教育棟3-201
概要	まちぐわーの歴史や成り立ち、事前に行ったインタビュー調査の結果など様々なデータを踏まえて、100年後のまちぐわーについて想像を膨らませ、まちぐわーの将来の理想像についての議論を行う。
目的	公設市場を含めたまちぐわーに対する学生の声を集めるため、また、本イベントである「100年つづく公設市場ミーティング」と似た状況でファシリテーションを体験するための事前イベントとして実施。

(2)報告事項

結果
■参加者数20名(目標参加者数：35名)：メールにて受付 *一部時間配分を変更したものの、概ね時間内にて滞りなく遂行。 ■イベントで得られた意見 全参加者が「(まちぐわーが後生まで) 続いて欲しい」という意見で一致したが、その反面「現時点のままで続くと思わない」という意見が参加者全体の8割を占めた。「公設市場に行ったことはありますか」という質問に対して、「行ったことがない」、または「1度のみ」という回答が大半であり、その理由としては交通の便が悪いからという意見が多く挙げられた。また、公設市場に対して「沖縄らしさ」や、「人とのコミュニケーション」に魅力を感じるといった意見が多くみられた。
イベント内容
■プログラム 1. はじめに ①挨拶 ②まちぐわーとは(場所・歴史・現在の様子) ③まちぐわーについての様々な声(インタビュー調査をもとに)

2. ワークショップ

- ①ワークショップの説明
- ②100年後、那覇まちぐわーは続いてほしい？続いている？
- ③グループ内での自己紹介
- ④100年後の那覇まちぐわーを想像する
- ⑤グループが考える100年後の那覇まちぐわー発表準備

3. 発表

4. おわりに

【詳細】

基本事項

- ・1グループ4～5人、各テーブルにつき1名\ごまるよん。／メンバーがファシリテーターとして議論に参加。
- ・議論は付せんと模造紙を用いた、ブレインストーミング形式で行う。
- ・付せんはワーク毎に異なる色のものを使用する。
- ・雰囲気のを和らげるため、各グループにお菓子を配布。

【ワーク1】100年後、那覇まちぐわーは続いてほしい？続いている？

問い①：あなたは100年後まで那覇まちぐわーは続いて欲しい？

問い②：現時点の状況が変わらないとして、100年後まで那覇のまちぐわーは続いていると思う？

*2つの問いに対する回答をもとに、グループ分けを行う。

【ワーク2】グループ内自己紹介

*アイスブレイクを兼ねて、「〇〇な人からお願いします」という風に順番を決める。

【ワーク3】100年後の那覇まちぐわーを想像する

*ワーク1で行った2つ質問の理由を付せんに書き出し、グループ内で共有。

(付せんはそれぞれ問い1は桃色、問い2は水色を使用)それを踏まえ、100年後の那覇まちぐわーの理想像について考える。

*ペンや付せん、模造紙を使って発表準備をする。書き足したい意見などは黄色の付せんを使用。

【ワーク4】発表

↓実物例



■グランドルール

- ・ 1つの付せんに1つのアイデア
- ・ みんな喋る
- ・ 時間は守る
- ・ 否定しない
- ・ 話が横道にそれないように気をつける
- ・ 文字は大きく読みやすく

*これを指針に、議論をすすめていく。

PR 活動

■PR 活動一覧

- ・ 授業内告知(ちらし配布など含む)

*資料に関しては資料編にて参照。

記録写真





↑ 発表時





↑ イベント全景

所感

本番と似た状況でファシリテーションを体験したことで、問題点・改善点を把握できた。議論が活発であり、学生の意見も多く得られた。また、臨機応変な対応が求められた状況下で、各々がそれに対し十分な対応ができたと考える。しかし同時に、事前準備の不足や、イベント運営時のもたつきを痛感した。本番に向けての改善点が見つかった。

イベント実施概要：

100年つづく公設市場ミーティング

(1)概要

名称	「100年つづく公設市場ミーティング」
実施日	2018年 11月 27日 火曜日
開催時間	19:00～21:30 (18:30 開場)
実施場所	沖縄県那覇市牧志3丁目2番10号 那覇ぶんかテンプス館 3階 会議室①②
概要	100年前の公設市場の様子や、那覇市が掲げる新公設市場の基本方針など様々なデータを踏まえて、100年後の公設市場について想像を膨らませ、それぞれの立場から、公設市場の将来の理想像についての議論を行う。
目的	那覇市第一牧志公設市場再整備の流れの中、「公設市場が100年つづくような場所になるにはどうしたらよいか？」を議論することによって、長期的な地域づくりを視野に入れた公設市場の在り方の構想を目指す。また、利害関係にしばられない広い議論の展開と様々な立場の人が集う場を提供する。

(2)報告事項

結果			
■参加者数22名(目標参加者数：35名)：メールにて受付 ＊一部時間配分を変更したものの、概ね時間内にて滞りなく遂行。			
■参加者内訳			
市役所	市場・まちぐわー関係者	学生	一般
4人	10人	4人	4人
■グループ毎に考えられた○○な公設市場 1 グループ：タイムトラベルな公設市庭 2 グループ：ソーシャルテーマパークな公設市場 3 グループ：離れていても WELCOME な公設市場 4 グループ：育む公設市場 5 グループ：新旧入り交じる不思議な公設市場			

* 詳細については瓦版参照(資料編にて)

■ アンケート集計結果(一部抜粋)

- ・ 市場周辺事業者として、皆が市場のことを生き生きと話している姿が嬉しかったし、公設市場にしかできないことがあるのかとも思えました。
- ・ 地元の方達が少なくなりつつある市場ですが、今回の発表を受けて、希望が見える思いでした。
- ・ 事業主、消費者、市役所の方、学生など様々な立場の意見を聞くことができ、とても有意義な時間になりました。

イベント内容

■ プログラム(全体)

1. はじめに
 - ① あいさつ
 - ② 公設市場再整備についての説明
 - ③ 公設市場に関する様々な声
 - ④ 未来の那覇・公設市場
 - ⑤ ワークショップの概要説明
2. ワークショップ I
 - ① 100年後公設市場は続いて欲しいですか？
 - ② グループでの自己紹介
 - ③ 100年後の公設市場のキャッチコピーを考えよう！
 - ④ 100年後の公設市場をデザインしてみよう！
 - ⑤ 発表準備
3. 発表
4. ワークショップ II
 - ① グループ間での交流タイム
 - ② グループ内での意見共有
 - ③ 未来のために「今」できること
5. おわりに

【詳細】

基本事項

- ・ 1 グループ 4～5 人、各テーブルにつき 1 名\ごまるよん。／メンバーがファシリテーターとして議論に参加。
- ・ 議論は付せんと模造紙を用いた、ブレインストーミング形式で行う。
- ・ 付せんはワーク毎に異なる色のものを使用する。
- ・ 雰囲気のを和らげるため、各グループにお菓子を配布。

【ワークショップⅠ】

①100年後、公設市場は続いて欲しいですか？

＊アイスブレイクも兼ねて、はい／いいえで分かれてもらう。

②グループ内自己紹介

＊アイスブレイクを兼ねて、「〇〇な人からお願いします」という風に順番を決める。

③100年後の公設市場のキャッチコピーを考えよう！（〇〇な公設市場）

＊シンキングタイム。各々、緑色の付せんに書き出す。

＊グループ内発表

＊グループで1つのキャッチコピーを作る→複数合わせても、新しく作っても〇

④100年後の公設市場をデザインしてみよう！

＊グループのキャッチコピーをもとに自分たちが「こうなってほしい！」と思う具体的な案を、各々考えつつ桃色の付せんに書き出し。

＊グループ内発表

⑤発表準備

＊ワーク4を受けて、グループ内で議論。グループで1つの「〇〇な公設市場」という発表ができるようにペンなどを用いて準備。

＊追加情報があれば黄色の付箋。

↓実物例



■グランドルール

- ・みんなしゃべる
- ・時間を守る
- ・否定しない
- ・話がそれないように気を付ける
- ・話すときは一人ずつ

＊これを指針に議論をすすめていく

PR 活動

■PR 活動一覧

- ・ポスター・ちらし配布、掲出
- ・メディア告知
- ・瓦版配布

〈ポスター・ちらし配布、掲出〉

配布委託・掲出先一覧：アルファベット順にて記載

- ・まちぐわー案内所 ゆっくる(ちらし掲出・ちらし配布委託)
- ・外間製菓所(ポスター掲出・ちらし配布委託)
- ・公設市場(ポスター掲出・ちらし配布委託)
- ・市場の古本屋 ウララ(ちらし配布委託)

〈プレスリリース配布〉

告知メディア一覧

- ・琉球新報社

* 資料に関しては資料編にて参照。

記録写真



↑ 議論中



↑ 発表の様子



↑ イベント全景

所感

多様な立場の参加者を集めることができ、様々な視点からの議論をすることができたと感じる。それぞれのグループが、歴史や文化などを後世に受け継ぎつつ、独自の理想の公設市場を構想していた点が印象的であった。ミーティングを通して、参加者が未来への第一歩を踏み出すきっかけとなったと考える。

イベント参加報告：第 11 回マチグワー楽会

地域への成果の還元の一環として、第 11 回マチグワー楽会での「100 年つづく公設市場ミーティング」に関する情報提供を行った。マチグワー楽会とは、那覇の商店街をホームとし、「マチグワー」に、いろいろな切り口、ジャンル、地域から関心を寄せる人々が年に 1 度集う『楽しさ』と『アカデミック』な部分を併せ持つプラットフォームである。話題提供を行った第 11 回マチグワー楽会 2 日目のプログラムは以下の表の通りである。

話題提供では、\ごまるよん。／の「100 年つづく公設市場ミーティング」プロジェクトの活動背景から今まで行ってきた活動の報告を行った。意見交換では、＜車座会議＞として参加者と\ごまるよん。／のメンバーで公設市場やまちぐわーに関する議論を行った。主に、公設市場のビジョンや「100 年つづく公設市場ミーティング」開催や学生が地域に関わる意義についての話題となった。詳細は「プロジェクト全体の成果」で述べる。

全体テーマ：変わるマチグワー・変わらないマチグワー	
2019/2/24 2 日目	＜車座会議＞公設市場は必要？ Yes、No、どちらともいえない ～100 年後の市場を考える～ 1) 話題提供「100 年つづく公設市場ミーティング（11/27・主催： \ごまるよん。／）」琉球大学学生 2) 意見交換

記録写真(イベントの様子)



地域への成果の還元

①瓦版発行・配布

地域への情報発信ツールとして、瓦版「琉大生が作りました通信 Ryu-Tu」を作成した。Vol.1 は、第一牧志公設市場やその再整備事業の概要をまとめ、より多くの人に公設市場に関することを知ってもらう目的で作成した。Vol.2 は 2018/11/27 に開催した「100年つづく公設市場ミーティング」の報告という内容になっており、開催したイベントの地域への成果還元の一環で発行した。

瓦版は公設市場組合長を通して公設市場全事業者(約 140)に配布した他、公設市場内のフ라이어置き場やまちぐわー案内所ゆっくる、公設市場周辺事業者を通して地域住民への配布を行った。＼ごまるよん。／の SNS でも瓦版について紹介している。

また、瓦版 Vol.1 は「100年つづく!? 那覇まちぐわーミーティング」と「100年つづく公設市場ミーティング」の2つのイベントで公設市場に関する参考資料としても使用した。

②SNS での情報発信

＼ごまるよん。／の Twitter・Facebook アカウント(ページ)を作成し、情報発信を行った。内容としては、「#ごまるよん活動日誌」としてアンケートやインタビュー調査・イベントの様子発信やイベント・瓦版の宣伝である。

③マチグワール楽会での話題提供

公設市場を含むまちぐわーで活動を行っている「マチグワール楽会」にて、「100年つづく公設市場ミーティング」の話題提供を行った。参加者は公設市場組合長や那覇市職員、まちぐわー事業者などまちぐわーに携わっている地域の人々であり、地域への成果報告の一環ともなった。

④報告書の作成

＼ごまるよん。／の「100年つづく公設市場ミーティング」に関する全ての活動をまとめた報告書を作成し、「地域の未来を考える資料」として公設市場組合長や那覇市役所、マチグワール楽会へ配布を行う。

プロジェクト全体の成果

11/27 に開催した「100年つづく公設市場ミーティング」であるが、その後も地域の人々へ影響を与えている。

まず、公設市場の組合長は、那覇市議会厚生経済委員室にて各グループが発表した「100年後の公設市場」についての模造紙の掲示、同委員会にて\ごまるよん。/ 作成の瓦版 Vol.2 と共にイベント内容の情報提供を行った。また、那覇市長へも瓦版の提供を通しての情報提供を行っている。議会や市長への情報提供を通して、私たちのイベントの成果が現在計画・実施されている公設市場の再整備事業へ反映される可能性があるだろう。

今回話題提供を行ったマチグワー楽会では、公設市場やまちぐわーのビジョンについての議論を行った。公設市場やまちぐわーの事業者は「商売」をしているので、消費者に合わせて変化していく。現在のように観光客が増加すれば、そのニーズに合わせてお土産やインバウンド向けの商品が並ぶようになる。しかし、地域のビジョンを考えたときに、「地域の人に愛されないと観光客は来ない」「昔らしさや沖縄らしさを残すべき」などの地域の人々や地域の文化を意識した意見が多い。地域の人に利用して欲しいが、消費者として地域の人々が減少し、さらに観光客向けの事業者が増加するというジレンマを抱えているのが公設市場やまちぐわーである。ビジョンを考えようにも、地域住民・観光客どちらを重視するのか等、着地点が見えていない現状である。だが、公設市場やまちぐわーを訪れ、外部資本ではない地域に根ざしたお店を利用する「良い消費者」が増えれば、自然と事業者も「良い消費者」向けに事業展開をするようになる。マチグワー楽会では、「良い消費者」を増やすことが公設市場やまちぐわーの地域振興につながるという結論となった。

この「良い消費者」を増やすという点で、私たちが行ったプロジェクトは成果をあげている。「100年つづく公設市場ミーティング」の最後に行った「公設市場が100年続くためには“あなた”には何ができますか」という問いに対して、「市場で商品を買う」「友達と市場を訪れる」「市場で楽しく過ごす」など「良い消費者」につながる行動を答えた参加者が多かった。また、参加者は地域の人だけではなく、学生やワークショップに興味があって訪れた地域の外の人もいた。地域外の人を「良い消費者」として取り込むきっかけにもなっていたのだ。また、瓦版の発行や普段公設市場に関わらない学生を対象とした100年つづく!? 那覇まちぐわーミーティング」では、公設市場やその周辺の地域への興味・関心を持ってもらい、実際に訪れるきっかけ作りにつながっている。そして何よりプロジェクトを通して、\ごまるよん。/ のメンバー自身が公設市場を取り巻く地域に関心を持ち、「良い消費者」となることができた。

「100年つづく公設市場ミーティング」プロジェクトは、地域のビジョンを考える場の提供だけではなく、「良い消費者」として地域に携わる人々の増加へとつながったのだ。

<資料編>

- ・ 2018/09/04 実施アンケート調査 調査票(観光客用：日本語)
- ・ 2018/09/04 実施アンケート調査 調査票(観光客用：英語)
- ・ ヒアリング調査 那覇市役所用
- ・ ヒアリング調査 高校生用
- ・ ヒアリング調査 事業者用
- ・ ヒアリング調査 通り会・文化協会用
- ・ 「100年つづく公設市場ミーティング」発表模造紙
- ・ 2018/11/09 開催プレイベント「100年つづく！？那覇まちぐわーミーティング」資料
- ・ 2018/11/27 開催プレイベント「100年つづく公設市場ミーティング」資料
- ・ 2019/2/24 参加イベント「第11回マチグワー楽会」資料
- ・ 「100年つづく公設市場ミーティング」プレスリリース
- ・ 「100年つづく！？那覇まちぐわーミーティング」フライヤー
- ・ 「100年つづく公設市場ミーティング」フライヤー
- ・ 瓦版「琉大生が作りました通信 Ryu-Tu Vol.1」
- ・ 瓦版「琉大生が作りました通信 Ryu-Tu Vol.2」

2018/09/04 実施アンケート調査 調査票(観光客用：日本語)

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ） アンケート調査票

那覇市の第一牧志公設市場の周辺は「マチグワー」と呼ばれて、公設市場と共に多くの市民に親しまれてきました。現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、私達チームは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。皆様のご協力を何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

Q1. どのような魅力を感じて公設市場周辺に観光に来ましたか。

Q2. 公設市場周辺で何をする予定ですか、または何をしましたか。

Q3. 公設市場周辺の文化や歴史を知っていますか。

はい ・ いいえ

→ はいと答えた方

どういうことを知っていますか。

→ いいえと答えた方

文化や歴史を知りたいと思いますか。その理由をお聞かせください。

Q4. どのような公設市場ならまた訪れたいと思いますか。その理由をお聞かせください。

Q5. この地域にまた訪れたいと思いますか。その理由をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

2018/09/04 実施アンケート調査 調査票(観光客用：英語)

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ） アンケート調査票

那覇市の第一牧志公設市場の周辺は「マチグワー」と呼ばれて、公設市場と共に多くの市民に親しまれてきました。現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、私達チームは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。皆様のご協力を何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

Q1. どのような魅力を感じて公設市場周辺に観光に来ましたか。

(Before you visit the area of Kousetsu Market, how had you thought of the charm of here?)

Q2. 公設市場周辺で何をする予定か、または何をしましたか。

(What are you going to do at the area of Kousetsu Market or What did you do at here?)

Q3. 公設市場周辺の文化や歴史を知っていますか。

(Do you know about the area of Kousetsu Market's culture and history?)

はい ・ いいえ

(Yes) (No)

→ はいと答えた方 (the person who answered Yes)

どういうことを知っていますか。

(What do you know about the area of Kousetsu Market's culture and history?)

→ いいえと答えた方 (the person who answered No)

文化や歴史を知りたいと思いますか。その理由をお聞かせください。

(Do you want to know the area of Kousetsu Market's culture and history?

Why do you think so?)

Q4. どのような公設市場ならまた訪れたいと思いますか。その理由をお聞かせください。

(If you visit this area of Kousetsu Market again, what kind of that do you want?

Why do you think so?)

Q5. この地域にまた訪れたいと思いますか。その理由をお聞かせください。

(Do you want to visit this area again? Why do you think so?)

2018/09/04 実施アンケート調査 調査票(地元利用者用)

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ） アンケート調査票

那覇市の第一牧志公設市場の周辺は「マチグラー」と呼ばれて、公設市場と共に多くの市民に親しまれてきました。現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、私達チームは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。皆様のご協力を何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

Q1 どこから来ましたか。

那覇市() 沖縄県内()

Q2 年齢を教えてください。

10 代 ・ 20 代 ・ 30 代 ・ 40 代 ・ 50 代 ・ 60 代 ・ 70 代 ・ 80 代 ・ 90 代

Q3 公設市場の利用頻度はどのくらいですか。

年()回 ・ 月()回 ・ 週()回 ・ 毎日

Q4 公設市場を利用する目的は何ですか。

Q5 公設市場の魅力は何だと思いますか。

Q6 公設市場の再整備が計画されていますが、どのような市場だと通い続けますか。

Q7 観光客の増加によってマチグラーや公設市場に変化を感じましたか。また、その理由もお聞かせください。

Q8 地域の若者がマチグラーや公設市場を訪れてほしいと思いますか。また、その理由もお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ）：ヒアリング調査

那覇市第一牧志公設市場はもともと地域住民のために作られたものでありましたが、急速に観光地化が進んだことで地元の人々の場所という側面が弱くなってきています。特に地元の若者が訪れる機会が減少傾向にあります。

現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、本プロジェクトは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、地域住民・市場事業者・未来を担う若者が集う場を設けて、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。関係者の方々のご協力、何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

【全体質問】

①公設市場の魅力

1.公設市場にはどのような魅力があると思いますか？

2.(①ー1 で答えて頂いた)公設市場の魅力を守って行くにはどうすれば良いと思いますか？

②公設市場の役割

1.公設市場は食文化継承の役割を担っていると思いますか。

はい→どのように担っていると思いますか。

いいえ→どうしてそのように思われますか。

2.食文化継承の役割以外に、公設市場はどのような役割を担っていると考えますか。

③今後の公設市場のあり方

1.今後公設市場にはどのような役割を担ってほしいですか？

2.公設市場が長く(100 年)続くにはどのようなことが必要だと思いますか？

④公設市場移設について

- 1.公設市場の移設前後で何が変わると思いますか？
- 2.公設市場の移設前後で変わらないものは何だと思いますか？

⑤その他

- 1.「100 年続く公設市場ミーティング」において、多角的な視点から公設市場やその移転について議論することにどのようなことを期待しますか？
- 2.公設市場に若者が関わってほしいと思いますか？また、なぜそう思いますか。

【個別質問】

- 1.新公設市場の計画はどのように進めていくのですか。また、その理由は何ですか。
- 2.住民の意見をどのように、どのくらい反映させたいとお考えですか。
- 3.公設市場移転事業の中で、大変だったことは何ですか。
- 4.これからの事業の中での不安要素は何ですか。

ありがとうございました。

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ）：ヒアリング調査

那覇市第一牧志公設市場はもともと地域住民のために作られたものでありましたが、急速に観光地化が進んだことで地元の人々の場所という側面が弱くなってきています。特に地元の若者が訪れる機会が減少傾向にあります。

現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、本プロジェクトは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、地域住民・市場事業者・未来を担う若者が集う場を設けて、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。関係者の方々のご協力、何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

- 1.公設市場には普段行きますか。
- 2.どのような公設市場なら行きますか。
3. 新しく公設市場ができますが、どのような公設市場にしてほしいですか。
- 4.マチグワーに普段行きますか。
- 5.若者はマチグワーにいないといわれますが、どうしてそう言われると思いますか。
- 6.どうすればマチグワーに若者が足を運ぶようになると考えますか。
- 7.現在若者は少ないと言われていますが、自分が大人になったときにマチグワーに足を運ぶと思いますか。

ありがとうございました。

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ）：ヒアリング調査

那覇市第一牧志公設市場はもともと地域住民のために作られたものでありましたが、急速に観光地化が進んだことで地元の人々の場所という側面が弱くなってきています。特に地元の若者が訪れる機会が減少傾向にあります。

現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、本プロジェクトは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、地域住民・市場事業者・未来を担う若者が集う場を設けて、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。関係者の方々のご協力、何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

基本項目

- ・性別 （ ）
- ・年齢 （ ）歳
- ・出身 （ ）都道府県
（ ）市町村※沖縄県内出身者のみ
- ・お店の名前 （ ）
- ・業種 （ ）
- ・開業年数 （ ）年
- ・公設市場に携わって何年になるか （ ）年

①公設市場の魅力

- 1.公設市場には現在どのような魅力があると思いますか？
- 2.公設市場の魅力を守っていくにはどうすれば良いと思いますか？

②公設市場の役割

- 1.公設市場は食文化継承の役割を担っていると思いますか。
はい→どのように担っていると思いますか。
いいえ→どうしてそのように思われますか。
- 2.食文化継承の役割以外に、公設市場はどのような働きがあると考えますか。

3. 今後公設市場にはどのような場所であって欲しいですか？
4. 目指すべき公設市場の達成のために、市場の事業者としてすべきことは何だと考えていますか。

③100 年後の公設市場について

1. 公設市場の 100 年後はどうなっていると思いますか？
2. 公設市場が 100 年続くにはどのようなことが必要だと思いますか？

④公設市場移設について

1. 公設市場の移設前後で何が変わると思いますか？
2. 公設市場の移設前後で変わらないものは何だと思いますか？
3. 公設市場の移設前後で変わらないで欲しいものと変わってほしいものは何ですか？
4. 移設後の新たな公設市場に対して、要望や提案はありますか。
(小間割一つ一つを大きくして欲しい、可動式の板で区切って欲しいなど)
5. 第一牧志公設市場本工事の際、アーケードがなくなるという話もありますが、
新公設市場の建設ではアーケードを設置して欲しいですか。
6. 公設市場と同じように、「県民の台所」として親しまれてきた沖縄県那覇市樋川の農連市場などが移転した新施設「のうれんプラザ」ですが、のうれんプラザの開発についてはどのように感じていますか？

⑤100 年続く公設市場ミーティングについて

私たちが企画・運営する「100 年続く公設市場ミーティング」は、未来を考えた地域づくりを目的としています。「公設市場が 100 年つづくような場所になるにはどうしたらよいか？」を話し合うことで、公設市場に関わる様々な人々の声を聞く場を設けます。

1. 「100 年続く公設市場ミーティング」において、どのようなことを期待しますか？

⑥公設市場と若者

1.公設市場に若者が関わってほしいと思いますか？また、なぜそう思いますか。

はい→どうすれば若者が公設市場に関わると思いますか？

⑦あなたにとって公設市場とは何ですか。

ありがとうございました。

H30 年度地域共創型プロジェクト（ちゅらプロ）：ヒアリング調査

那覇市第一牧志公設市場はもともと地域住民のために作られたものでありましたが、急速に観光地化が進んだことで地元の人々の場所という側面が弱くなってきています。特に地元の若者が訪れる機会が減少傾向にあります。

現在、公設市場の建て替えが計画されており、様々な場所で議論が起きています。そのため、本プロジェクトは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、地域住民・市場事業者・未来を担う若者が集う場を設けて、新しい公設市場を構想していきたいと考えております。本調査はミーティングの参考資料として使うことを目的と致します。関係者の方々のご協力、何卒宜しくお願い致します。

＼ごまるよん。／

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催
「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム

基本項目

- ・性別 （ ）
- ・年齢 （ ）歳
- ・出身 （ ）都道府県
（ ）市町村※沖縄県内出身者のみ
- ・公設市場に携わって何年になるか （ ）年

①公設市場の魅力

- 1.公設市場には現在どのような魅力があると思いますか？
- 2.公設市場の魅力を守っていくにはどうすれば良いと思いますか？

②公設市場の役割

- 1.公設市場は食文化継承の役割を担っていると思いますか。
はい→どのように担っていると思いますか。
いいえ→どうしてそのように思われますか。
- 2.食文化継承の役割以外に、公設市場はどのような働きがあると考えますか。
- 3.今後公設市場にはどのような場所であって欲しいですか？

4.目指すべき公設市場の達成のために、(通り会・文化協会)ですべきことはあると思いますか。

5.公設市場と(通り会・文化協会)はどのような関わりがありますか。また、今後関わるとしたらどのような関わり方ができると思いますか？

③100 年後の公設市場について

1.公設市場の 100 年後はどうなっていると思いますか？

2.公設市場が 100 年続くにはどのようなことが必要だと思いますか？

3.公設市場を 100 年続けると考えたときに、(通り会・文化協会)はどのように貢献できると考えてますか？

④公設市場移設について

1.公設市場の移設前後で何が変わると思いますか？

2.公設市場の移設前後で変わらないものは何だと思いますか？

3.公設市場の移設前後で変わらないで欲しいものと変わってほしいものは何ですか？

4.移設後の新たな公設市場に対して、要望や提案はありますか。

(小間割一つ一つを大きくして欲しい、可動式の板で区切って欲しいなど)

5.第一牧志公設市場本工事の際、アーケードがなくなるという話もありますが、新公設市場の建設ではアーケードを設置して欲しいですか。

6. 公設市場と同じように、「県民の台所」として親しまれてきた沖縄県那覇市樋川の農連市場などが移転した新施設「のうれんプラザ」ですが、のうれんプラザの開発についてはどのように感じていますか？

⑤100 年続く公設市場ミーティングについて

私たちが企画・運営する「100 年続く公設市場ミーティング」は、未来を考えた地域づくりを目的としています。「公設市場が 100 年つづくような場所になるにはどうしたらよいか？」を話し合うことで、公設市場に関わる様々な人々の声を聞く場を設けます。

1. 「100 年続く公設市場ミーティング」において、どのようなことを期待しますか？

⑥公設市場と若者

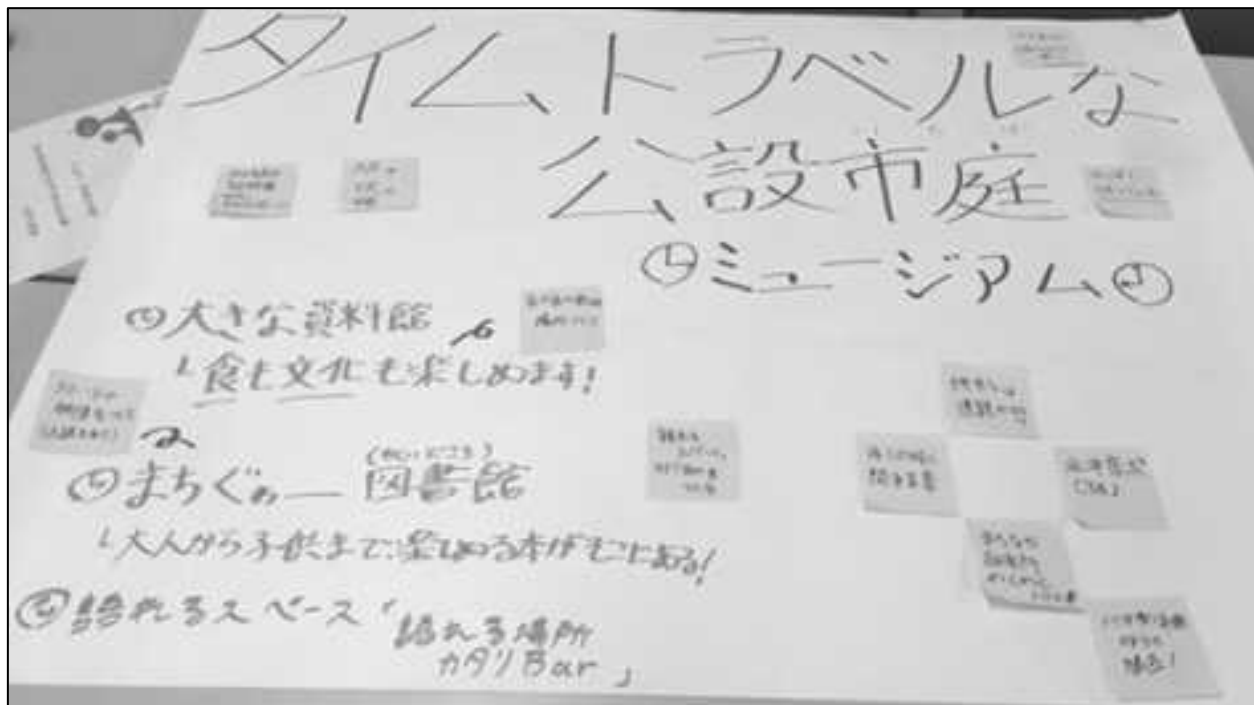
1. 公設市場に若者が関わってほしいと思いますか？また、なぜそう思いますか。

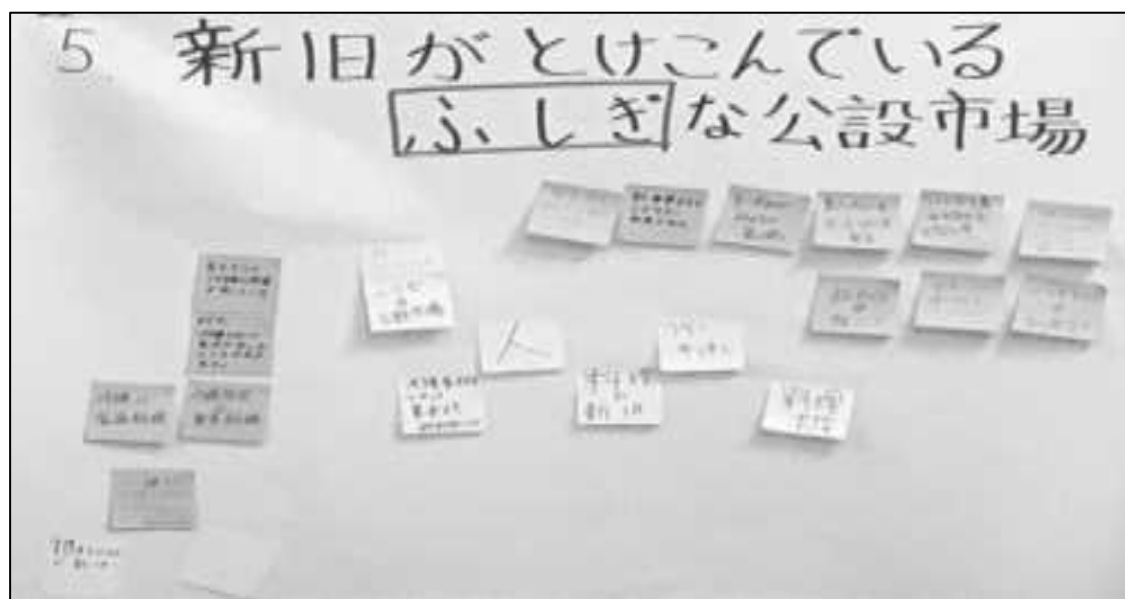
はい→どうすれば若者が公設市場に関わると思いますか？

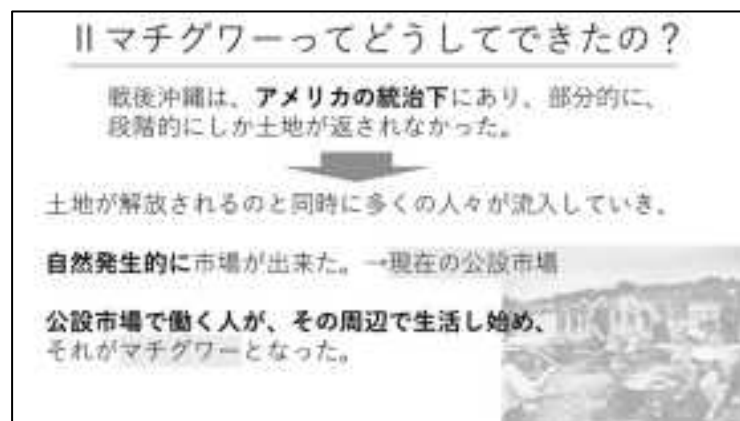
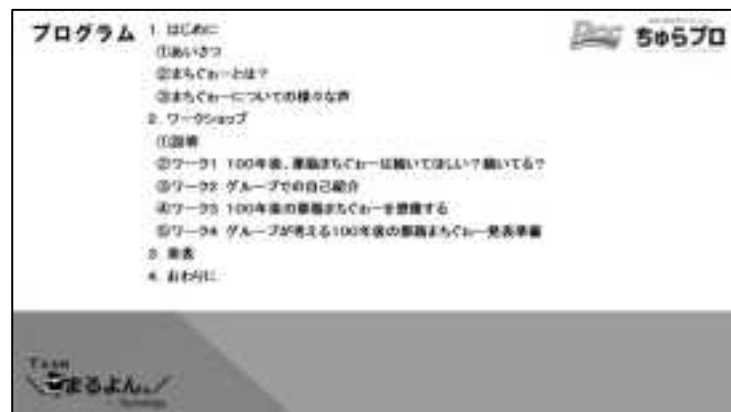
⑦あなたにとって公設市場とは何ですか。

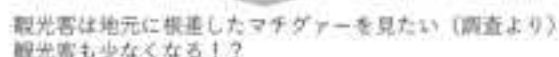
ありがとうございました。

「100年つづく公設市場ミーティング」発表模造紙









2018年11月9日 香港理工大学

【インタビュー調査】

調査対象者：①那覇市役所（経済観光課はまち振興課、まちづくり振興推進課）

②沖縄尚学高校 地域研究部

③公設市場の関係者（事業者、通り会など）

調査実施日：2018年9月

【アンケート調査】

調査対象者：公設市場利用者（地域住民、観光客含む）

調査実施日：2018年9月4日

調査場所：第一牧志公設市場周辺



【インタビュー調査】

☆公設市場の魅力とは？

那覇市：店主さんとの距離が近く何でも聞け。距離感や人間関係も学べるのが魅力。

→どのように守るか？

公設市場は誰のためにあるのか、どのようなものにしたのか、コンセプトをしっかりとらないといけない。委員会が男性ばかりで利用客は女性が多いのに女性の意見が通っていない。

高校生：首里城などほかの場所と違い、今も実際に動いているため今と昔を比べられる点。

事業者：スーパーにはないような掘り出し物があり、品揃えが豊富である。また、専門店のため豊富な知識（精肉や鮮魚など）がある。
→どのように守るか？
地元に向けたアプローチを行い、価値の再確認を行う。若者の挑戦を受け入れ、目を引くような小売店を増やす。

その他：相対売りが魅力。
一か所に多種多様な菜種（肉、鮮魚、野菜など）がある。



▲消費者の様子

☆公設市場の役割とは？

事業者：お盆や休み明けなどに食材を求め、行列ができるため、食文化継承の役割は担っていると思う。
食の観点から言われることが多く、それはマスメディアなどの外的要因が大きいと思う。
また、コミュニケーションの場としての役割や産後復興の象徴の場である。

その他：①食文化継承の「一部」を担っている。

②観光客のシンボルタワー的存在として、エリアへのシャワー効果

☆公設市場が100年続くには？

那覇市：今の住民の方や観光客が公設市場に求めていることをしっかり把握することが大事。

高校生：今の雰囲気を残しては欲しいけど、そのまま残すのは難しいと思うので、今の雰囲気を残しつつ中高生が足を運びやすい場所にしてほしい。

事業者：地元の人たちを大切にする公設市場を造ることが大事。

その他：若い人たちがどういう市場にするか真剣に取り組んで欲しい。地元の人と交わることができる場づくりが必要。

☆公設市場に若者が関わってほしいか？

那覇市：とても若者に関わってほしいと思う。
将来若い人に使ってもらえる場所でないといけない。

事業者：若者がいるだけで、活気が出ると思うから関わってほしい。マネジメントできる人がいれば若者が参加しやすい場所にできるとおもふ。
また、若者が事業主となり魅力的なお店を作ってほしい。

その他：積極的に関わってくれる若者に対しては、交流の場を設けたい。

☆地域利用者の意見

①まちぐるみの魅力

- ・人と会える。話ができる
- ・昔ながらの雰囲気やレトロ感がある
- ・沖縄らしさがある



▲アンケート調査の様子

②公設市場の魅力

- ・人とのコミュニケーション、対話がある
- ・沖縄の人の人柄や楽しさを感じることができる

※観光客にとってはいい場所であるが、地域利用者にとっては使いにくい一面もある。

【アンケート調査】

☆観光客の意見

・どういう魅力を感じたか？

①地元の食文化を感じられる。
（魚やチラガーを見るため）

②たくさんのお店があるから

③沖縄の雰囲気を感じられる

④インターネットやガイドブックを見て



ワークショップの説明

Team
まるよん

ちゅらプロ

ワークショップの流れ



ワーク①
100年後、那覇まちぐわーは続いてほしい？ 続いている？

Q1

あなたは100年後まで那覇まちぐわーは続いてほしい？

Q2

このままの状況が変わらないとして、100年後まで今の形のまま、那覇のまちぐわーは続いていると思う？

2つの質問を、教室全体を使って考えていきます！
→その回答をもとにグループ分けをします。

ワーク②
グループでの自己紹介

1人30秒の自己紹介タイム、(= '▽' =)

自己紹介の順番はお楽しみに…

ワーク③
100年後の那覇まちぐわーを想像する

ワーク①で行った2つ質問の理由を
フセンに書き出して、グループで共有しよう！



それを踏まえた上で、
100年後の那覇まちぐわーはどうなってほしいか？
について考えてみる！

ワーク④
グループが考える100年後の那覇まちぐわー発表準備

それぞれのグループが考える
100年後の那覇まちぐわーの将来像はどんなもの？

フセンや模造紙を使って発表準備をしよう！

では、実際にワークショップをはじめてみましょう！

ワーク①
100年後、那覇まちぐわーは続いてほしい？ 続いている？

Q1

あなたは100年後まで那覇まちぐわーは続いてほしい？



続いてほしい→教室の右側
続いてほしくない→教室の左側

シンキングタイム！ 30秒
移動 10秒

ワーク②
100年後、那覇まちぐわーは続いてほしい？続いている？

Q2
このままの状況が変わらないとして、100年後まで今の形のまま、那覇のまちぐわーは続いていると思う？

継続していると思う→教室の右側
継続していると思わない→教室の左側

シンキングタイム！ 30秒
移動 10秒

ワーク②
100年後、那覇まちぐわーは続いてほしい？続いている？

Q1とQ2の回答に基づいて、以下の図のように移動してください！

那覇のまちぐわー			
9	9	9	9
100年後まで続いていると思う	100年後まで続いていると思わない	100年後まで続いていると思う	100年後まで続いていると思わない
9	9	9	9
100年後まで続いていると思う	100年後まで続いていると思わない	100年後まで続いていると思う	100年後まで続いていると思わない

Q1
あなたは100年後まで那覇まちぐわーは続いてほしい？

Q2
このままの状況が変わらないとして、100年後まで、今の形のまま、那覇のまちぐわーは続いていると思う？

移動 20秒

グループ分け・移動時間

グループワーク！

机にあるお菓子はご自由にどうぞ、(= '▽' =)ノ

ワーク③
グループでの自己紹介

①名前
②学年・学科・専攻
③那覇まちぐわーや公設市場にいったことある？
④マイブーム
⑤ひとこと

1人30秒の自己紹介タイム、(= '▽' =)ノ

まずは、各グループにいる\ごまるよん。ノのメンバーから！

その次は、袖が一番長い人から時計回りにお願いします。

30秒ごとにベルが鳴ります。ベルが鳴ったら交代です！

ワーク③
100年後の那覇まちぐわーを想像する

ワーク①で行った2つ質問の理由をフセンに書き出して、グループで共有しよう！

↓

それを踏まえた上で、100年後の那覇まちぐわーはどうなってほしいか？について考えてみる！

ワーク②
100年後の那覇まちぐわーを想像する

話し合いのルール

- ・時間を守る
- ・みんなしゃべる
- ・否定しない
- ・話がそれないように気を付ける
- ・話すときは一人ずつ

ワーク②
100年後の那覇まちぐわーを想像する

Q1

あなたは100年後まで那覇まちぐわーは続いてほしい？
続いてほしい/ほしくない
理由をフセンに書き出してみよう！

フセン1枚に
1つのアイデア
文字は大きく読みやすく

フセンに書き出す時間 2分

発表1人30秒×6人=3分

ワーク③
100年後の那覇まちぐわーを想像する

Q2

このままの状況が変わらないとして、100年後まで
今の形のまま、那覇のまちぐわーは続いていると思う？
続いていると思う/思わない
理由をフセンに書き出してみよう！

フセン1枚に
1つのアイデア
文字は大きく読みやすく

フセンに書き出す時間 2分

発表1人30秒×6人=3分

ワーク③
100年後の那覇まちぐわーを想像する

Q100年後、那覇まちぐわーはどうなってほしい？
将来像を描いてみよう！

それをフセンに書き出そう！

フセン1枚に
1つのアイデア
文字は大きく読みやすく

フセンに書き出す時間 3分

発表1人30秒×6人=3分

ワーク④
グループが考える100年後の那覇まちぐわー発表準備

それぞれのグループが考える
100年後の那覇まちぐわーの将来像はどんなもの？

フセンや模造紙を使って発表準備をしよう！

15分

発表時間
4分
(発表 3分
質疑・コメント1分)

＼グループ別発表／

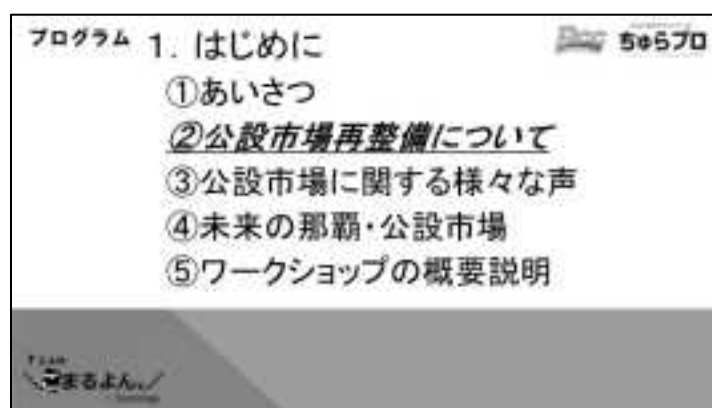
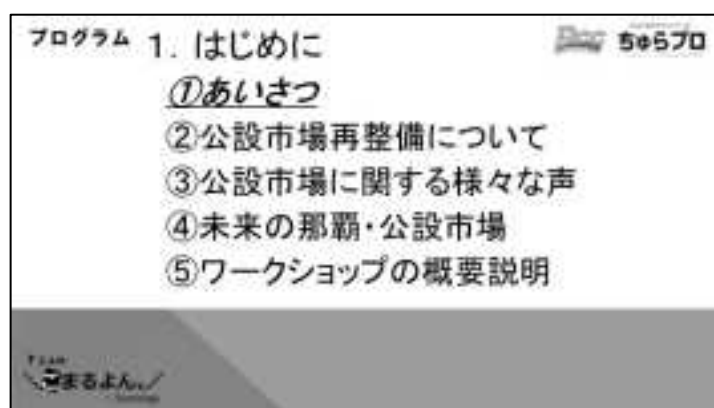
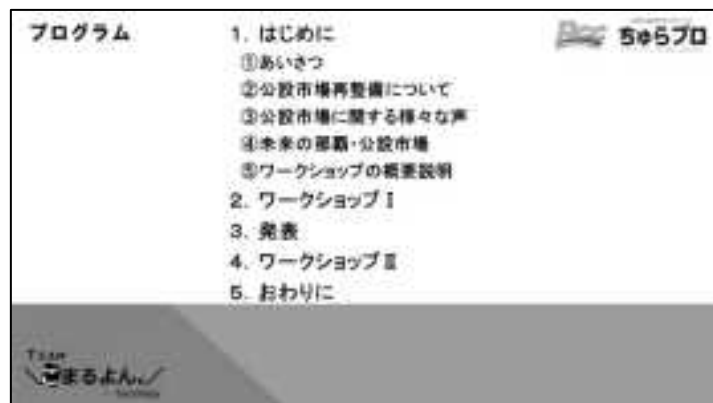
発表順番は先着順！

発表時間各グループ4分 (発表3分 質疑・コメント1分)

※ 2分経過→ベル1回

3分経過→ベル3回

4分経過→強制終了



■再整備の流れ(4年間)

建物や設備の老朽化から再整備が決定

工事期間中は仮設市場を開設することに

仮設市場

→にぎわい広場跡地にて建設中

新市場

→現市場と同じ場所(2022年建設終了予定)

■再整備の流れ(4年間)



■那覇市が提案する基本方針

- ①沖縄食文化を継承・発展する市場づくり
- ②観光地としての魅力向上に寄与する市場づくり



市民・県民・観光客の交流と学びを育むための
那覇の大市場(ウフマチ)の創造

詳しくはお手元の資料を
ご覧ください。



プログラム 1. はじめに

50570

- ①あいさつ
- ②公設市場再整備について
- ③公設市場に関する様々な声
- ④未来の那覇・公設市場
- ⑤ワークショップの概要説明



公設市場に関する 多様な人の声



①インタビュー調査

②アンケート調査

③フレイベント開催

公設市場の魅力

市職員：歴史・店主との距離の近さ・人間関係を学べる

事業者：専門性・盛り出し物がある・品揃えが豊富

地元利用者：人とのコミュニケーション・活気・仲間らしさ

観光客：沖縄の雰囲気や食文化を感じられる・お店の多様さ

高校生：今と昔を比べられる

その他：相対売り・一か所に多様な業種がある



魅力を守るには？

市職員：コンセプトをしっかりとる

事業者：地元に向けたアプローチを行う
価値の再確認を行う
若者の挑戦を受け入れる
目を引くような小売店を増やす



その他：委員会に女性を入れ、女性の意見が届くようにする

公設市場の役割とは？

事業者：食文化継承
コミュニケーションの場
戦後復興の象徴の場

その他：食文化継承の「一部」を担っている
観光客のシンボルタワー的存在
エリアへのシャワー効果



公設市場が100年続くにはどうすればいい？

市職員：公設市場に求めていることを把握する

高校生：今の雰囲気を残しつつ中高生が足を運びやすい場所

事業者：地元の人たちを大切にする

その他：若い人たちがどういう市場にするか真剣に取り組む
地元の人と交わることができる場づくり



どのような公設市場だと通い続ける？

地元利用者

- ・今の雰囲気がある
- ・人との交流がある
- ・沖縄らしきがある
- ・清潔感がある
- ・スーパーマーケットのような感じで便利



※地元利用者/若者/観光客を優先してほしい

公設市場に若者にも関わってほしいか？

市職員・事業者・地元利用者

→ 思う



イベント
「100年つづく！那覇まちくわーミーティング」での学生の声

まちくわーはつづいて欲しい
→100%

このままの状況だとつづくと思わない
→80%

公設市場には、行ったことない・1度のみ
→大半。交通の便が悪いという声

沖縄らしさや人とのコミュニケーションに魅力
を感じていた。



- ・インタビュー、アンケート調査の分析
- ・イベントの様子
- ・本日のイベントの様子

瓦版として報告書を発行いたします。

プログラム 1. はじめに

- ①あいさつ
- ②公設市場再整備について
- ③公設市場に関する様々な声
- ④未来の那覇・公設市場
- ⑤ワークショップの概要説明

50570

那覇市
まちくわー



未来の那覇・公設市場

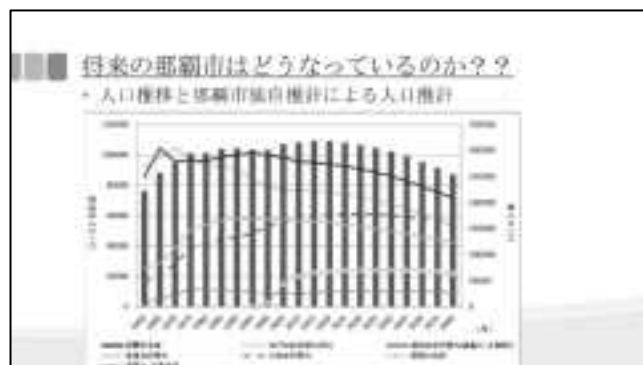
未来の那覇市と公設市場周辺はどうなっているんだろう？



■ 今から100年前ってどんな感じ？

☆1918年ごろ（大正時代）の生活の様子

- ・ランプから電灯に変わり、昼長
- ・人々の服装が和装から洋装に変化（モダンガールと呼ばれる女性たちなど）

■ 那覇市はこの状態をどう捉えているのか？

経済的基盤を保つため、幅広い世代に支えられた「なは」の活力を維持するために人口30万人を維持することが必要である！

■ 【長期目標】
将来にわたって人口30万人を維持し、みんなの笑顔が輝く「なは」

■ 【詳細】

- ①子ども・子育て世帯の定着促進
- ②希望と活力あふれる雇用の維持と創出
- ③健康で次世代を支えるシニアの増加

（沖縄県人口推計2050年）
（沖縄県人口推計2050年）

■ 那覇市第5次総合計画とは？

将来にあるべき姿及び進むべき方向性についての基本的な指針を示したものであり、2018年度から10年間のまちづくりの指針としてまとめられたもの。



■ 那覇市第5次総合計画より
公設市場に関わる10年後のビジョン

■ 【施策】
商店街やマチグラーなどが賑わうまちをつくる

■ ビジョン達成に向けて具体的には何をするのか？

- ①市民・県民・観光客のバランスの取れた商業の再生
- ②インバウンドの受け入れ体制整備によるおもてなし力向上
- ③個店の魅力を原点とした商業の活性化
- ④地域資源を有効に集約・活用するための仕組みづくり

■ プログラム 1. はじめに

- ①あいさつ
- ②公設市場再整備について
- ③公設市場に関する様々な声
- ④未来の那覇・公設市場
- ⑤ワークショップの概要説明

59570

59570

本日のワークショップ

100年後の
公設市場を考
える。

ワークショップ Ⅰ

「100年後の公
設市場」を考
える
【45分】

発表

【15分】

ワークショップ Ⅱ

違うグルー
プとの交流
タイム
【25分】

ワークショップの流れ

ワーク① 「100年後も公 設市場は続い てほしいか」

- 会場全体を使って、
二つに分かれる
- この会場にいる
みなさんの意見を共有する

ワーク② グループ活動

•自己紹介

サポート役の本セゾ問題をします

ワーク③

- 一人で、「100年後の理想の市場」を
キャッチコピーを考えてみる。
(○○な公設市場)
- みんなの案をもとに、
グループで一つのキャッチコピーを作る。

ワーク④

- 100年後の公設市場をデザインしてみ
る
グループのキャッチコピーをもとに、
自分たちが「こうなしてほしい」という
具体的な案を出す。

ワーク⑤

- 発表準備
具体的な公設市場の未来像を深める
発表へ向けての準備

発表

ワーク⑥ 違うグループ との 交流タイム！

発表を聞いて、
違うグループと意見交換

ワーク⑦・ ⑧

- もう一度元のグループに戻って、
- ワーク⑥の感想を共有
- 自分で考えた公設市場像のために
「今から」自分ができていることを考える

プログラム 2. ワークショップ I

50分プロ

- ワーク1 あなたは100年後公設市場はつづいて欲しいですか？
- ワーク2 グループでの自己紹介
- ワーク3 100年後の公設市場のキャッチコピーを考えよう！
- ワーク4 100年後の公設市場をデザインしてみよう！
- ワーク5 発表準備
- 3. 発表
- 4. ワークショップ II
- 5. おわりに

50分プロ
50分プロ

ワーク1 「100年後も公設市場は続いてほしいか」

- ＊会場全体を
使って、二
つに分かれ
ます
- ＊移動30秒

続いてほしい

続いてほしくない

話し合いのルール

- ・時間を守る
- ・みんなしゃべる
- ・否定しない
- ・話がそれないように気を付ける
- ・話すときは一人ずつ

ワーク2 グループ活動

自己紹介内容

- ・名前
- ・なぜ参加したのか
- ・好きな食べ物など

自己紹介（30秒×1人）

最初にサポート役が自己紹介をする。

その後は髪が長い人から時計回りに自己紹介をして
ください！

ワーク3 100年後の公設市場のキャッチ コピーを考えよう！

- シンキングタイム・付箋（緑色）へ書き出し（3分）
- 発表（1人1分）

グループで1つのキャッチコピーを作る（9分）

合議数合わせでも、新しいのもOK

〇〇な公設市場！

ワーク4 100年後の公設市場をデザインしよう！

- ・グループのキャッチコピーをもとに、自分たちが「こうなってほしい！」という具体的な案を出す。

例えば...

- ・シンキングタイム・付箋（ピンク）へ書き出し（3分）
- ・発表（1人×1分）

ワーク5 発表準備（13分）

- ・ワーク4を受けて、みんなで議論！
- ・グループが考える「〇〇な公設市場」という発表ができるようにしましょう！
- ・追加情報があれば黄色の付箋。

プログラム2. ワークショップⅠ

 **505プロ**

3. 発表

4. ワークショップⅡ

- ワーク6 グループ同士の交流タイム！
- ワーク7 グループでの共有
- ワーク8 未来のために「今」できること

5. おわりに

Team
まるよん
by 株式会社

発表

各グループ3分

- ※2分経過→ベル1回
- 3分経過→強制終了

発表の時は、
グループ番号と、
「〇〇な公設市場」
について発表します。
と述べてから始めて
ください！

発表順番はやりたいグループから！

※次のワークにつながるため、ちゃんと聞いておいてください！

プログラム2. ワークショップⅠ

 **505プロ**

3. 発表

4. ワークショップⅡ

- ワーク6 グループ同士の交流タイム！
- ワーク7 グループでの共有
- ワーク8 未来のために「今」できること

5. おわりに

Team
まるよん
by 株式会社

ワーク6 違うグループとの交流タイム！

1. グループを半分に分けます
2. 移動です！ グループのA班はそのままで、B班が移動します。

A班→B班 への質問・感想など 4分

B班→A班 への質問・感想など 4分

ワーク7 感想共有

他のグループと交流をしての感想を共有
1人1分の発表

今のままで、
あなたの理想の公設市場は
100年後実現している
のでしょうか？

ワーク8 自分が今できることについて考える 考える時間3分

付箋は青色

発表は全体で 6分

1年後に1%
実現に近づくには
何ができる？

プログラム

50570

1. はじめに
2. ワークショップⅠ
3. 発表
4. ワークショップⅡ

5. おわりに

アンケートのご協力よろしくお願いします。

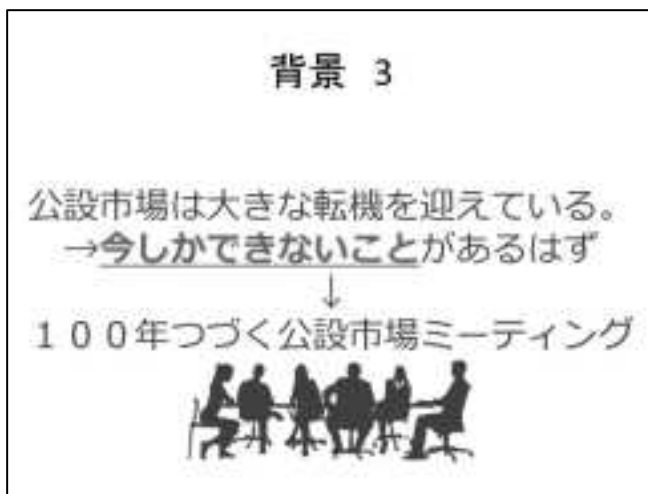
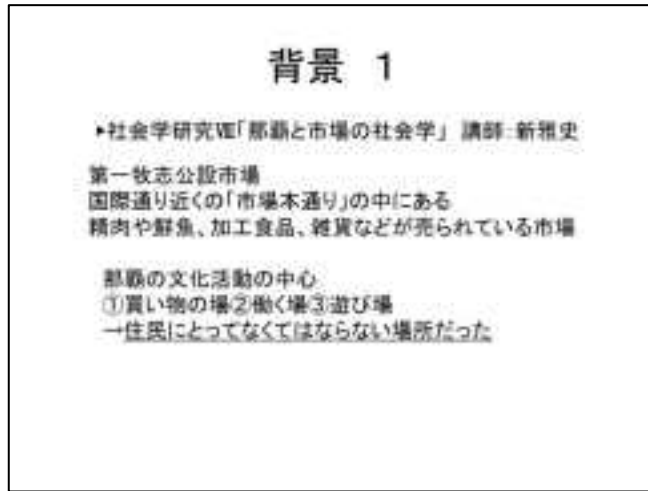
入口のボックスにて回収します。

会場は21:30まで解放いたします。

グループで写真を撮ったり、
気になるあの人とお話ししてみたり、
ご自由にお使いください！



50570



▶プロジェクトのオリジナリティ

- ・ 未来につながる市場を語り合う場の創出。
- ・ 直接利害関係がない「学生」が企画するからこそ。
- ・ しばられない広い議論が可能。
- ・ 社会学専攻の学生だから、
フィールドワーク調査に長けている。

100年つづく公設市場ミーティング



キーワード

多様な人々
長期的な視点
自分事として考える

▶ミーティング開催前に…1

▶インタビュー調査

調査対象者：① 市役所（経済観光課をはじめ振興課、まちづくり振興推進課）

② 沖繩大学高校、地域研究所

③ 公設市場の関係者（事業者、通い会など）



調査実施日：2018年9月

▶アンケート調査

調査対象者：公設市場利用者（地域住民、観光客含む）

調査実施日：2018年9月4日

調査場所：第一牧公設市場周辺



Team
まるよん／
Marketing

▶ミーティング開催前に…2



学生の声を集める プレイベント開催



▶ミーティング開催前に…3

瓦版発行① (市場再整備の内容)

公設市場・市場再整備の概要を説明します。



▶ミーティング開催前に…4

ファシリテーション講座



▶ミーティングの様子1



▶ミーティングの様子2 瓦版②



▶ミーティングの様子3

琉球新報
2018/12/11



今やっていること

報告書作成



今年フライヤー

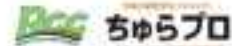
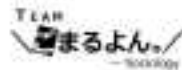


RCC・COC+
成果報告会
2019/03/18
14:00~



ちゅらプロ

「100年つづく公設市場ミーティング」プレスリリース



報道関係者各位

News Release

2018年10月22日

\ごまるよん。/

2018年度地域共創型学生プロジェクト(通称:ちゅらプロ)事業本座主催
「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」採択チーム

「ちょっと、市場の未来作ってくる」

\100年つづく公設市場ミーティング開催。/

2018年11月27日(火)、那覇市ぶんかテンプス館3階会議室で「100年つづく公設市場ミーティング」を開催致します。

那覇市第一牧志公設市場再整備の流れの中、「公設市場が100年つづくような場所になるにはどうしたらよいか?」を議論することによって、長期的な地域づくりを視野に入れた公設市場の在り方の構想を目指します。



2018年度地域共創型学生プロジェクト(通称:ちゅらプロ)採択チーム「\ごまるよん。/」が企画・運営を行い、「100年つづく公設市場ミーティング」を開催致します。

那覇市第一牧志公設市場(以下、公設市場)の周辺は「マチグラー」と呼ばれていて、沖縄の文化の拠点でありました。現在、公設市場は再整備が計画されており、転換期を迎えています。そのような計画がある今だからこそ、本プロジェクトを行う意義があると考えております。また、「学生」がこのような話し合いの場を企画・運営することによって、利害関係にしばられない広い議論の展開と様々な立場の人が集う場を設けます。

「100年つづく公設市場ミーティング」

開催日時:2018年11月27日(火) 19時~(1時間半程度)
開催場所:那覇市ぶんかテンプス館3階会議室
(住所:沖縄県那覇市牧志3丁目2番10号 電話番号:098-988-7810)
参加費用:無料
申込:要(定員35名)申込票多数の場合は抽選となります。
参加資格:公設市場周辺に在住・在勤・在学の方や公設市場の未来を考えてみたい方
申込み締切:2018年11月13日(火) 17時まで
必要事項:氏名・年齢・所属・住所・連絡先をメールにお書き頂き、お申込みください。
宛先:smarad4sociology@gmail.com
当日の来場も可能です。その際は事前に連絡をお願いします。

\ごまるよん。/とは、琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻所属の地域づくりに興味がある7人で結成したチームです。メンバーは、リーダー川崎早苗・副リーダー金城愛梨・伊佐良奈子・永瀬菜花・金城ひな子・辻本航・植根文紀です。「思い立ったら即行動」をモットーに全力で活動中です。

「地域共創型学生プロジェクト(通称:ちゅらプロ)」(主催:琉大コミュニティキャンパス(ACC)事業本座)とは、現大生が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこで活躍の発見・開発等に取り組むという「公営型の正課外プロジェクト」です。詳細は、琉大コミュニティキャンパス(<http://cmslcc.jp/area/acc/acc.html>)のサイトをご覧ください。



\ごまるよん。/メンバー

【本件に関するお問い合わせ先】

\ごまるよん。/

2018年度地域共創型学生プロジェクト(通称:ちゅらプロ) (琉大コミュニティキャンパス(ACC)事業本座主催)採択チーム

Email: smarad4sociology@gmail.com

活動状況を更新しています! ⇨ Twitter:@smarad Facebook:\ごまるよん。/で検索

「100年つづく!?那覇まちぐわーミーティング」フライヤー

琉球大学
H30年ちゅらプロ採択学生チーム
TEAM
ごまるよん。
— Sociology — 主催

ちゅらプロ
ちよつと、
まちぐわーの未来作ってくる







100年 *In* 琉球大学 つづく!? 那覇まちぐわー ミーティング

那覇まちぐわーとは、国際通りに隣接している
第一牧地牧志公設市場周辺の商店街のことです！
「まちぐわー」は、しまくとぅばで市場や商店街を
意味します。

日時 2018年11月9日（金）
16時30分～（5限の時間帯）

場所 琉球大学 共産教育棟3号館 201

参加資格 100年後の那覇まちぐわーを考えてみたい方！
申し込み不要、当日参加OK！
気になる点などありましたら
お気軽に「ごまるよん。」メンバーまでお問い合わせください。
Mail: 5maru4sociology@gmail.com

5,6人のグループを作り
100年後、那覇のまちぐわーは必要
なのか!?
について語り合います。





「ごまるよん。」とは、琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻所属の地
域づくりに興味がある人で結成したチームです。「思い立ったら即行動」をモ
ットに全力で活動中です。Mail: 5maru4sociology@gmail.com

「ごまるよん。」の活動日誌
Twitter → @5maru4
Facebook → 「ごまるよん。」で検索

琉球大学
H30年ちゅらプロ採択学生チーム
TEAM
＼ごまるよん。／
— Sociology — **主催**

ちゅらプロ
ちよっと、
市場の未来作ってくる

100年

つづく

公設市場

ミーティング





現在、第一牧志公設市場の再整備が計画されています。この機会に、公設市場の未来について考えてみませんか？

日時 2018年11月27日 (火)
19時～(1時間半程度) ※開場18時半

場所 那覇市ぶんかテンプス館 3階会議室

参加資格 公設市場の周辺に在住・在勤・在学の方
公設市場の未来を考えてみたい方！

費用 無料

申込 要(定員35名)
※先着順とさせていただきます。
締切 2018年11月26日(月) 17時
氏名・年齢・所属・住所・連絡先を
記入の上メールにてお申し込み下さい。
宛先: 5maru4sociology@gmail.com

5,6人のグループを作り、
100年後に、どんな公設市場に
なってほしいか??
について語り合います。



＼ごまるよん。／とは、琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻所属の地域づくりに興味がある人で結成したチームです。「思い立ったが即行動」をモットーに全力で活動中です。

＼ごまるよん。／の活動日誌

Twitter → @5maru4

Facebook → ＼ごまるよん。／で検索

琉大生が作りました通信

Ryu-Tu

Vol.1 2018.11.

■はじめに

この新聞は、第一牧志公設市場を中心に活動（裏面参照）を行っている琉大生が作成したものです。

今年、第一牧志公設市場は再整備の年を迎えています。本紙では、表面見聞きに市場再整備に関する簡単な説明、裏面には新公設市場・仮設市場についての情報をまとめてお伝えします。この機会に、市場について多くの方に関心を持っていただけたら幸いです。

■再整備の流れ(4年間)

2017年 仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計

2018年 仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計

2019年 仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計

2020年 仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計

2021年 仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計

2022年 仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計
仮設市場 新市場設計

■100年つづく公設市場ミーティング

「ごまるよん。」の活動の1つとして、100年つづく公設市場ミーティングを開催しました。

第一牧志公設市場の再整備が計画され、転換期を迎えている「今」。100年後にどのような公設市場になって欲しいかを語り合いました。そして、参加者は、今の自分のできることを考えながら未来への一歩を踏み出しました。

イベントの詳細は次号で掲載致します。

■お問い合わせ等

2018年度琉大生「ごまるよん」プロジェクト
Email: 5maru4@doccity.com
Twitter: @5maru4
Facebook: 「ごまるよん。」で検索

ごまるよんについて
<http://ryu-tu.com/news/4054.php>

100年つづく公設市場ミーティング

「ごまるよん。」の活動の1つとして、100年つづく公設市場ミーティングを開催しました。

第一牧志公設市場の再整備が計画され、転換期を迎えている「今」。100年後にどのような公設市場になって欲しいかを語り合いました。そして、参加者は、今の自分のできることを考えながら未来への一歩を踏み出しました。

イベントの詳細は次号で掲載致します。

■お問い合わせ等

2018年度琉大生「ごまるよん」プロジェクト
Email: 5maru4@doccity.com
Twitter: @5maru4
Facebook: 「ごまるよん。」で検索

ごまるよんについて
<http://ryu-tu.com/news/4054.php>

公設市場・市場再整備の概要を説明します。

第一牧志公設市場について

■第一牧志公設市場とは？

第一牧志公設市場は、沖縄県の食材が一同に集まり「沖縄の台所」として60年以上の歴史を持ち、沖縄の「食」を体感でき、地元の方にも親しまれています。また、那覇最大の観光スポットとなっています。

■市場再整備の理由

■どうして再整備するの？

1950年に開設された公設市場は、1972年の建替えにより現在の建物になっています。

しかし、建物や設備の老朽化により、早急な再整備が必要な状況にあることから建て替えが決まり、新たな公設市場が作られようとしています。

市場再整備について

■再整備の日程は？

今年の7月から、仮設市場建設に向けての工事が進んでおり、2019年4月から、仮設市場での営業開始を目指しています。新市場の営業開始は2022年を予定しております。（詳しい日程は表紙にあります）。

市場再整備について2

■予算はどのくらいかかるの？

平成29年3月時点。

26.8億円

を予定しています。

新設市場	建設工事費（建築）	7.6億円	平成29年度 新設市場で建設
建設費	建設工事費（電気・機械）	6.7億円 <td>平成29年度 新設市場で建設</td>	平成29年度 新設市場で建設
調査設計監理費		1.5億円 <td>平成29年度 仮設市場で建設</td>	平成29年度 仮設市場で建設
既存施設撤去費		0.8億円 <td>平成29年度 仮設市場で建設</td>	平成29年度 仮設市場で建設
敷地の舗装面に伴う経費		5.2億円 <td>敷地舗装を完成</td>	敷地舗装を完成
移転に伴う機材搬送・調査費等		2.8億円 <td>移転期間中に発生</td>	移転期間中に発生
移転に伴う経費等		2.2億円 <td>移転期間中に発生</td>	移転期間中に発生
合計		26.8億円	

再整備の基本方針

■再整備の基本方針

- ① 沖縄食文化を継承・発展する市場づくり
- ② 観光地としての魅力向上に寄与する市場づくり

■施設の将来像

市民・県民・観光客の交流と学びを育むための那覇の大市場（ウフマチ）の創造

新公設市場について

4年後の**2022年**に、新たな第一牧志公設市場がオープンします。那覇市は、新公設市場が沖縄の食文化を継承・発展させ、様々な人々が訪れる場所になる事を目指しています。

2018年現在の実施設計を行っており、内装やごみ問題・トイレの設置について検討中です。

■内装について

1F



内容

外コマ
内コマ
生鮮
鮮魚

2F



内容

ATM
簡易機
軽食
食堂

3Fは倉庫・食肉処理業務スペースを予定しています。

■お買得トイレ・ゴミ室について

現在、公設市場とその周辺ではお買得トイレが不足しているため、新公設市場では**1階に1つ、2階に1つ、3階に1つ**設置する予定です。また多様なニーズに対応できるバリアフリーの公衆トイレについても検討中です。

ゴミ室は**1階**、またゴミの搬入・搬出を屋内に配置する予定です。理由としては、迅速なゴミの収集、保管が容易になり、不法投棄の監視も可能になるためです。

■アーケードについて

アーケード設置とは…
→新公設市場建設の際に、公設市場周辺にかかっているアーケードを外すこと。またアーケードを設置するのか、誰が設置コストを負担するのかという問題。

＼アーケードに関するQ&A／

Q. アーケードをもう一度設置する場合の費用は誰が負担するの？
A. アーケードをもう一度設置する場合は約2億4000万円のコストがかかります。那覇市からは約2500万円の補助金が受けられますが、残りを誰が出すかは検討中です。

Q. 現在のアーケードは誰がいつ設置したの？
A. 現在のアーケードは、各通り会が1970年代後半～80年代にかけて設置したものです。

Q. 新公設市場にもアーケードはかけるの？
A. 日・雨除けやその他の理由のためにアーケードを欲しいという声も大きいです。市と通り会がまだ検討中です。




仮設市場について

仮設市場はにぎわい広場の跡地に建設され、**平成31年度からの3年間**の営業が予定されています。(詳しい日程は表面に記載)

外観のイメージ▶



また、仮設市場の各店舗の配置が抽選より決定しました。下記の図が仮設市場内装の平面計画図です。

1F



内容

外小売部門
生鮮部門
鮮魚部門
精肉部門

2F



内容

惣菜・弁当
軽食・カフェ
その他小売

■にぎわい広場について

にぎわい広場の歴史

1969年～2001年まで営業していた第二牧志公設市場跡地に建設されたのがにぎわい広場です。その後、児童館が併設されるなど、住民の憩いの場となっていました。現在は、仮設市場の建設工事が始まっています。

工事車両の経路

市域住民の皆さんにとっての憩いの場である工事車両の経路ですが、現在様々な案が出ています。

- ① 国南文庫から浮遊通りを通る案
- ② のうりんズラザから浮遊通りを通る案
- ③ JALシティホテル方面から入る案



工事の進捗状況

児童館の解体工事は終了しています。写真は現在の広場の様子です。(撮影日2018/10/19)



琉大生が作りました通信

Ryu-Tu

Vol.2 2019.1

■はじめに

この新紙は、第一牧志公設市場を中心に活動(調査・取材)を行っているチーム「へごまるよん。」が作成したものです。

第2号となる本誌では、2018年11月27日に私達が開催したイベント「100年つづく公設市場ミーティング」の様子を報告しています。100年後の公設市場がどのようなものになって欲しいか、本誌を読んで皆さんも考えてみてください!

■「へごまるよん。」とは?

「へごまるよん。」とは琉球大学文学部人間科学科社会学専攻所属の地域づくりに興味がある7人で結成したチームです。

琉球大学地域共創型学生プロジェクト(ちゅうぶろ)協賛チームとして活動しています。思い立ったら即行動がモットー。

■100年つづく公設市場ミーティング

私達は2018年11月27日に「100年つづく公設市場ミーティング」を開催しました。第一牧志公設市場の両壁面が計画され転換期を迎えている「今」に100年後にどのような公設市場になって欲しいかを語り合いました。

ミーティングのプログラムは以下の通りです。

- I: はじめに (公設市場に関する基本情報・様々な声の紹介)
- II: ワークショップ① (グループで100年後の公設市場をデザイン)
- III: 発表 (各グループの100年後を発表)
- IV: ワークショップ② (違うグループと交流タイム)
- V: まとめ(今日分けることを考える)

ミーティングの様子は、12月11日の琉球新報で紹介して頂きました。ウェブでもご覧いただけます。

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-547064.html>

■お問い合わせ等

2018年度琉球大学「ちゅうぶろ」協賛チーム

Email: 5maru4sociology@gmail.com

Twitter: @5maru4

Facebook: 「へごまるよん。」で検索

ちゅうぶろについての詳細!

<http://ryukocj.m.u-ryuky.ac.jp/news/4054.php>

■ミーティング全体総括

このミーティングでは、市場関係者・地域の利用者・市役所職員・学生など様々な立場の方々が集まり、グループを作りました。多様な視点からの議論をすることにより、普段の思考を飛び越えて想像を膨らませることができていたと感じます。

各グループ独自の理想の公設市場がデザインされており、発表を聞いていて非常に面白かったです。皆さんの公設市場に対する熱い気持ちが発表から伝わってきました。

■参加者の感想

参加者の皆様から頂いたミーティングの感想の一部を紹介します。

- ・市場周辺事業者として、皆が市場のことを生き生きと語っている姿が嬉しかった。公設市場にしかできないことがあるのかもと思いました。
- ・地元の方達が少なくなっている市場ですが、今回の発表を受けて、希望が見える感じがした。
- ・事業者、消費者、市役所の方、学生など様々な立場の意見を聞くことができて、とても有意義な時間になりました。

■ミーティングを終えて

どのグループも歴史や文化などを後世に受け継ぎつつ、理想の公設市場を構築していた点が印象的でした。ミーティングを通して、参加者の皆様が未来への第一歩を踏み出したのを感じました。

今後も公設市場について関心を持って「自分事」としてこれからの公設市場を考えて語っていきければ幸いです。

本ミーティングに参加して頂き、本当にありがとうございました。

1班 タイムトラベルな公設市庭

■100年後の市場について詳しく!

「タイムトラベルな公設市庭」

「タイムトラベル」という言葉には、時間の歴史をつなぐ・かつて市場がどのような場所であったのかを語り合える・時の旅ができる・博物館のようなものになってほしいという思いが込められています。

また、市場を「市庭」と表現したのは、沖縄の島の庭のように外と中との境界線が曖昧で、色々な人が気軽に訪れることができる場所にしたいという気持ちからです。

市場そのものが博物館・資料館・図書館を兼ねており、「タイムトラベル」をすることが出来ます。また、ゆくい紙や語りBarを併設して、より一層様々な交流が可能となります。

■100年後に向けて今できることは?

- ・短編小説を書いている
- ・島の市場の写真を展示する
- ・過去を知る今を語る未来を想像する
- ・いろいろな話を集める
- ・友達と行ってみよう! 公設市庭の街

2班 ソーシャル・テーマパークな公設市場



■ 100年後の市場について詳しく！

「ソーシャル・テーマパーク」な公設市場
公設市場を遊園地のような場所へ。
100年後の公設市場は今のようない建物ではなく、人々の体験や経験ができる場になっています。「コト×モノ×体験×時間」を公設市場という空間でシェアし、自分にとっての公設市場を見つけることができる「ソーシャル・テーマパーク」になってほしいとキヤッチコピーをつけました。

コト：シェアリングエコノミーで新しい遊び方へ
（お金がもたない？）

モノ：居らっしゃいや、沖縄の食を伝える商品やサービス
体験：「商業体験」・「職業体験」・「自給自足」
時間：（過去）「沖縄の食文化や歴史を学べる場」
→「ドローン体験できるバーチャルな場」（未来）
四つの融合で新しい公設市場が誕生する！

100年後に向けて今できることは？

- ・信頼できる個人の集まり
- ・沖縄の食文化を学ぶ
- ・マナブツの皆さんとの交流を多く作る
- ・AIプログラムの開発
- ・買って食べて話す

3班 離れていてもWELCOMEな公設市場



■ 100年後の市場について詳しく！

「離れていてもWELCOMEな公設市場」
時間的・物理的・意識的など…何がどんなに離れていても来やすく受け入れ可能な公設市場になってほしいという気持ちが込められています。

未来の公設市場には

- ・車がなくともすぐに行くことができる。
- ・夕飯の献立も迷わずコーディネートしてくれるロボット
- ・個人や店のおばあが立体的に投影される「3D投影機」
- ・実際にいけなくとも市場の雰囲気・食料の味・食感・匂い全てを体験できる「VR施設」があります。

もちろん、どんな遠方にも来店可能なキャッシュレスなレジが全店舗で完備されています。

100年後に向けて今できることは？

- ・市場で商品を買う
- ・自店舗の年商を10%UP↑
- ・今のWELCOMEの再確認
- ・存続していくために働きやすい環境づくり
- ・タブレットを使いこなす！

4班 育む公設市場



■ 100年後の市場について詳しく！

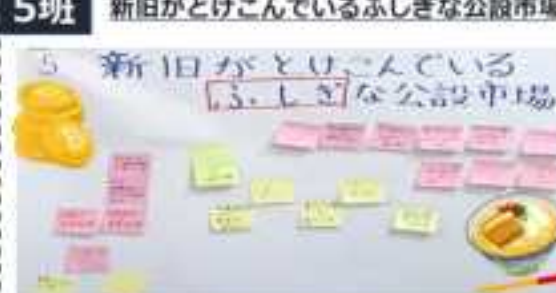
「育む公設市場」
私たちが考えた100年後の公設市場は、**力つぎ**も**も**も**育む**ことが出来る市場です。公設市場が地域の人をはじめ、多くの人々の大切な場所になってほしい。関わってほしいという思いからこのアイデアを構想していききました。

この「育む公設市場」では、例えば、**夢に挑戦したい若者が無料で短期間お店を営業し、売上のプロフェッショナルな事業者の方から知識をもらうことが出来ます。**そして、その若者が成長し、今度はこの公設市場に教える人（プロフェッショナル）として**戻ってくる**かもしれません。**循環型**の場所を提供し、人々が**繋がり**、様々な人を**育む**公設市場が私たちの理想の公設市場像となりました。

100年後に向けて今できることは？

- ・若者の夢を応援するイベントを開催する
- ・レジエント探し
- ・市場内や知事のお店について調べてみる
- ・市場で楽しく過ごす
- ・市場サロンの市場大学、やりたい人求む！

5班 新旧がとけこんでいるふしぎな公設市場



■ 100年後の市場について詳しく！

「新旧がとけこんでいるふしぎな公設市場」
私たちのグループは沖縄の歴史や文化が感じられる市場でありつつ、新しいものが融合しているふしぎで神秘的な公設市場というものをキヤッチコピーにしました。

ではそのような公設市場とはどんなものなのでしょう？
グループの皆さんから出た意見を一部紹介します！

- ・沖縄料理を使って異文化（海外料理など）とコラボ
- ・バリアフリーがしっかりある建物
- ・居らっしゃいやをビットコインで完る
- 沖縄の伝統的食材を最新技術で買う
- ・新事業を立ち上げやすい制度がある
- ・公設市場内に「料理大学」を設置する

100年後に向けて今できることは？

- ・公設市場について知識を深める
- ・仲間を増やす
- ・ゴミを拾う
- ・市民の声が行政に届き話し合いの場が持てる
- ・どんな理由で市場を利用しているか聞く

2018 年度琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部主催

「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」採択チーム \ごまるよん。／

「100年つづく公設市場ミーティング」報告書

2019 年 3 月発行

発行者 \ごまるよん。／

連絡先 \ごまるよん。／

E-mail: 5maru4sociology@gmail.com

琉大コミュニティキャンパス（RCC）事業本部

〒903-0213

沖縄県西原町字千原 1

国立大学法人 琉球大学 琉大コミュニティキャンパス(RCC)事業本部

TEL: 098-895-8085 / FAX: 098-895-8185

印刷 スピード冊子印刷.com